



六
歳
習

論
説

3364



114
A 1936



カ國內真貨ノ大ニ乏スルヲ以テ真貨ト通貨ト
 ノ價格ニ於テ非常ノ差違ヲ生シ隨テ各種ノ物價騰貴シ
 農氏ヲ除クノ外諸業ノ人氏其生活ニ苦シムノ實況ヲ目
 撃セリ又諸官廳ノ經費ニ於テモ真貨ヲ要スル毎ニ嘖々
 タルアリ諸官負モ亦各々其費用ヲ要スルノ多キニ嘖々
 タルアリ又公債証書ノ利子ヲ以テ生計ヲ資クルモノモ
 亦甚ク物價ノ騰貴ニ因却ス其他教員教導職ノミナラス
 下リテカ役者ニ至ルマテ各其心カラ勞シ其得ル所ノ給
 料ヲ以テ糊口スルモノ一トシテ是ニ困弊セサルナシ此
 時ニ際シ國家會計ノ大任ニ當ルモノハ實ニ猛者深慮ス
 ル所アリテ此倒瀾ヲ挽回セサル可ラサルナリ若シ之ヲ
 挽回スル能ハス因延歲月ヲ閱シ倍々困弊ノ地位ニ陥ル

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄贈

ルキハ誠ニ言フニ忍ヒサルノ結果ヲ生センコトヲ恐ル果
シテ斯ノ如キ時勢ニ至ラハ所謂智者アリト虽モ其後ヲ
善クスル能ハサルヤ必セリ

然ラハ則テ何等ノ方法ヲ以テ之ヲ匡救スルヲ得ヘキ乎
銀貨ヲ発行シテ其信用ヲ厚クセン乎洋銀貿易銀ノ並價
ハ其効ヲ奏スル能ハス正金銀行ノ方法ニ於テ乎恐ラ
クハ未タ以テ内外貿易ノ全局ヲ控御スルニ足ラサルヘ
シ條約ヲ改正シ海関稅ヲ増殖セン乎歐洲各國ノ連カニ
兼諾セサルヲ奈何セン其兼諾セサルカ為メ之ヲ齎懲セ
ン乎我カ國未タ各國ト數年間對戦スルノ準備ナカルヘ
シ其レ然リ然ラハ則テ今日ノ形勢到底我カ日本ハ「ヒツ
ト」ガラツデストオン等ノ如キ理財家アリト虽モ財政ヲ
善クスル能ハス「ル」ルリントシノ如キ名将アリト雖モ

各國ト對戦スル能ハス徒坐一日ノ安ヲ送リ其困難ノ極
ニ至ルヲ待テ内乱外患並ニ起リ言フニ忍ヒサルノ結果
ヲ生スヘキカ如シ

其レ然リ然リト雖モ之ヲ匡救スルノ方法ナキニ非ス只
幾分ノ弊ナキヲ保セサルノニ蓋シ世間百般ノ事彼ニ利
アルモノハ此ニ害アリ此ニ利アルモノハ彼ニ害アリ之
ヲ要スルニ政治家ト云ヒ政治家ト稱スル者ハ他無し其
時勢ト國情トノ適度ヲ計度シ其利害ノ結果奈何ヲ秤量
シテ之ヲ匡救シ善ク其中ヲ得ルニ在ル而已蓋シ現今我
カ國財政ノ尤モ困難ナルハ固ヨリ種々ノ支流アリト雖
モ其本源ヲ尋ヌレハ輸出ノ輸入ニ及ハサルヨリ真貨ノ
拂底トナリ此拂底ナルヨリ通貨ト非常ノ差格ヲ生シ終
ニ物價ノ沸騰トナレリ於是乎前段ニ記載セル如ク各官

廳ノ經費ヲ始メ上等社會ノ貴紳ヨリ下等カ役ノ賤夫ニ
至ルマテ其弊害ヲ蒙ラサルモノナシ今一步進ンテ其極
地ニ至ルヤ財務ヲ主宰スル官廳ハ理由ノ如何ヲ問ハズ
シテ天下ノ怨府トナリ再進シテ憤怒トナルハ是レ天下
士民ノ通情誰カ又之ヲ責罰スルヲ得ンヤ古人ハ安キニ
居ラスラ危キヲ忘レスト是レ人情ノ手ヲ轉シテ變遷頼
ニ難キヲ言フナリ嗚呼士民憤怒ノ色アルニ當テ内乱起
ラサルヲ期シ難シ帝ニ内乱ノ期シ難キノミナラス或ハ
禍ヒ蕭牆ノ内ヨリ生センコトヲ恐ル況ンヤ困弊ノ虚ニ乘
シ若シ一朝外患ノ侵スアラハ其レ何ヲ以テ予之ニ抗セ
ン是レ生カ前段ニ言フニ忍ヒサルノ結果ニ至ルヘキヲ
陳言セシ所以ナリ

今茲ニ八百萬田余ノ輸出ヲ増加シ又内地物價ノ沸騰ヲ

控制スヘキ一ノ方法ヲ述ヘン其事タル甚ク難キニ似タ
リト雖モ其實難キニ非ス只後年ニ至リ幾分ノ弊害ナキ
ヲ免カレサルノミ然リト雖モ此弊害タル之ヲ救済スル
ノ術ナキニアラス又其際ニ至ラハ之ヲ廢停スルモ可ナ
ルベシ抑モ其方法ナク者ハ他ニ非ス乃チ財政ノ主務タ
ル内國ノ税法ニ在ルノミ何ヲカ之ヲ云フ則チ地稅ノ内
其幾分ハ米麥ヲ現納セシムルノ謂ナリ今夫レ民間騰貴
ノ米麥ヲ政府ニ收入シ之ヲ海外ニ輸出スト云ハ、誰カ
之ヲ可トスルモノアラシヤ必ス其不可ヲ嗷々スヘシ然
リト雖モ是只全般ノ統計終局ノ奈何ヲ豫算セサルノ謬
見ナリ請フ詳カニ其計算ト理由トヲ闡說セン現今地稅
ノ總額ハ大凡四千貳百萬田ニシテ此内三千萬田ハ田地
ニ屬シ尙千萬田ハ畑地ニ屬シ貳百萬田ハ市街地ニ屬ス

而シテ改正税ヲ以テ算出セシ租額ハ大凡米七百五十萬石(田地)麦四百五十萬石(桑茶其外各種)此内四分(大坂麦ヲ以テ算出セリ)ノ一ハ時價ノ如何ニ係ハラズ米麦ヲ收入シ其餘ハ改正價格ニ拠リ税金ヲ收入スルトセハ米三百八十萬五千石麦百拾貳萬五千石ヲ領收スルヲ得ベシ蓋シ改正價格ヨリ低下ナルキハ二分ノ一ハ現穀ヲ公納セシムルノ法律アリ之ニ對シテ改正價格ヨリ高騰ナルモ四分ノ一ヲ徵收スルニ於テ何ソ其不可ヲ論スルヲ得ンヤ而シテ其歲出ニ供給スル歲入金ノ不足(田租額四分租額即チ七百五十萬石)之ヲ癸賣セシテ各地方ニ保蓄セハ所謂倉廩充實天下復米價沸騰ノ憂ナカルヘシ若シ沸騰ノ色アルキハ倉廩ヲ啓テ之ヲ糶賣シ所謂常平ノ實ヲ舉行スルヲ得ヘキナリ

夫レ此ノ如ク倉廩充實スレハ米價ノ沸騰スルナク日常ノ諸品モ隨テ低廉ナラサルヲ得ス而シテ農民ニ於テハ既ニ其所獲ノ米麦ヲ官廩ニ貢納セシニ由リ些少ノ食米ヲ減シ之ニ代フルニ他ノ雜穀ヲ以テシ幾分カ旧慣ニ復スルヲ得テ終ニ巨多ノ殘糧ヲ生スルニ至ラン果シテ此ノ如キハ翌年豫シテ秋獲ノ景況ヲ熟察スルノ後之ヲ海外ニ癸賣スルヲ得ヘキナリ人或ハ言ハシ米麦ヲ輸出スレハ内地ノ食糧ヲ減乏シ甚タ不可ナリ既ニ十年度ニ於テ許多ノ輸出アリシヨリ其反動十二年度ニ至リ米穀大ニ乏シ其價格ノ騰貴ヲ致セリト豈其レ然ランヤ蓋シ穀價騰貴ノ原因種々アリト雖氏之ヲ要スルニ十一年度ノ農作ハ七年ニ同シク全國ノ平均五分二厘ノ收穫ニシ

テ加フルニ農夫ハ其餘裕アルニ至ルヲ以テ各其消費ヲ
増加シ自カラ市場ニ現出スル米穀ノ数ヲ減セシニ由ル
ナリ今其概算ヲ舉ンニ全國人口ノ半数(大辟石ノ)ニ在ル
農氏各自ニ平均一日ニ玄米五勺ノ消費ヲ増加スルトセ
ハ其年額ハ三百拾万石余ニ昇ルベシ又之ニ及シテ
平均一日ニ玄米貳勺半ヲ節儉シ他ノ雜穀ヲ用フルトセ
ハ其年額百五拾五万石ヲ贏スヘキノ計算ナリ其他
大小麥ノ如キモ其幾分ヲ官廩ニ收入セハ隨テ農氏ニ於
テハ其收穫ノ増加ニ勉カスルハ自然ノ情ニシテ且陸羽
及ヒ北海道ノ如キモ麥作漸次盛大ニ赴キ終ニ巨額ノ殘
餘ヲ生スルニ至ルヘシ若シ此方法ニ出テスンハ年々米麥
ノ收穫ヲ増加スルヨリ其消費ヲ増加スルノ多キヲ以テ
終ニ食米ヲ海外ニ仰クノ國トナラン請フ其概計ヲ掲ケ

テ之ヲ陳述セン

抑モ皇國田地ノ及別ハ貳百五拾万町ニ過キス其收穫ハ
平年三千万石(一段ノ平均)ニ出サルヘシ(勸農局ノ統計表
千四百萬石ヨリ貳千六百萬石ニ昇降ス)此内醸酒ノ為メ消費スルモノ大率四
百萬石又邊辟ノ郡村ニ於テ各自ニ家醸ノ濁酒及ヒ菓餅
類其他家蓄等ノ為メ消費スルモノ百石ニ近カルヘ
シ因テ視レハ食料ニ供スル玄米ハ即チ貳千五百万石余
ニ止マルモノ、如シ然ラハ則チ前段ノ計算ノ如ク農夫
ノ食糧ニ餘裕アリテ漸次ニ雜穀ヲ厭ヒ米食ニ移リ終ニ
毎一人ノ平均百石ヲ消費スルノ時勢ニ馴致セハ百千七
百万石ヲ圍國ノ村落ニ消費シ市場ニ現出スルモノハ僅
カニ八百万石ヲ出テサルノ計算ナリ其レ此ノ如キハ他
ノ諸業ニ属スル百千七百万ノ人民ハ何ヲ以テカ食料ニ

供センヤ假令ヒ前段全國ノ收穫尚ホ數百萬石ヲ增加ス
ルノ計算ナルモ恐クハ欠額ヲ生スヘシ是故ニ農夫ハ旧
慣ニ仍リ幾分ノ雜穀ヲ併食スルノ方法ニ復セサレハ終
ニ食米ヲ海外ニ仰クノ國タルヘキヲ豫言スル所以ナリ
人或ハ云ハン農夫餘裕アラハ各自ニ其田畑ヲ改良シ以
テ之カ收穫ヲ增加スヘシト是レ固ヨリ其理由アリト雖
氏今日ノ勢其然ラサルモノアリ請フ其畧ヲ擧ンニ近今
著シキ輸入ノ増加（下等社會ノ供
充ルモノ）アルハ國民ノ消費力ヲ
増加セルノ一証ニシテ皮相ヨリ之ヲ見レハ賀スヘキカ
如シト雖モ其實之ニ應シテ他ノ貨物ヲ増加セシニ非ス
只内地ノ食料ヲ耕作スルモノ、其消費力ヲ増加セシニ
由レリ故ニ全般ノ形勢ヨリ之ヲ論セハ是レ歡喜スヘキ
ニ非スシテ却テ痛歎スヘキナリ又各地方ノ實況ヲ探聞

スルニ旧諸藩ノ城下津湊驛亭等ノ小市街ニ於テ諸興行
及ヒ遊廓ノ繁榮洋物店頭ノ雜沓多クハ農夫ナラサルナ
シト然レハ則チ夫ノ田畑ヲ改良シ其收穫ノ増殖ヲ勉ム
ルノ實用供スルハ僅々タル小數ニ過キサルトヲ証スル
ニ足レリ由テ觀レハ收穫ノ大ニ増加アラントテ企望ス
ルモ恐クハ其圖ニ至ラザラン請フ其比喻ヲ奉ン夫レハ
大島ハ旧来地租トシテ其產物即チ織物ヲ貢納シテ之ヲ
改正セス又聞ク琉球ノ税法モ旧慣ニ仍ルト蓋シ諒ニ島
ノ現況假令ヒ地租ヲ輕減シテ金稅ト為スモ諒島民ハ餘
裕ヲ得テ其作ル所ノ織物等ヲ増殖スルヲ勉メス倫安一
日ヲ送り減租ノ為メ却テ年々ノ產物ヲ減少スルヲ恐ル
、ナラン諒ニ島ノ人民業ニ既ニ此ノ如シ内地各郡村細
民ノ常情モ何ソ是レト甚シキ運庭アラシヤ生故ニ曰ク

米麦ノ收獲ヲ増加スルヨリ之ヲ消費スルノ多キ終ニ食
米輸入ノ國トナルト果シテ此時ニ至ラハ全國倍々貧困
ニ陥リ盜賊歳月ニ多ク餓莩溝壑ニ轉シ實ニ言フニ忍ビ
サルノ慘状ヲ現出スヘシ是故ニ皇國現今ノ勢米穀ヲ官
廩ニ貢納シ農夫ハ各自ニ其食糧ヲ節減シ雜穀ヲ併用ス
ルノ旧慣ニ復セシメスンハアルヘカラス之ニ復スルキハ前
段計算セシ如ク終ニ許多ノ殘贏ヲ生シ食米ノ輸入ハ一轉シテ輸
出ノ國トナルハ期シテ待ツヘキナリ其レ此ノ如キハ貨幣乏少
ノ患害ヲ除クニ足ルヘシ嗟呼今ニシテ之ヲ決行セサレハ後來
益々施行スルノ難キ假令之ヲ決行セント欲スルモ得ヘカラサ
ルノ域ニ至ラン

抑モ今明治十二年度ノ如キハ天下皆豊穰ニシテ数十年
間比類アルナシ然ルニ米穀ノ價額每石八九圓ニ上下
シ随テ諸品沸騰セリ若シ不幸ニシテ些少ノ凶荒ニ遇ハ
、其騰貴スルヤ實ニ言フヘカラサルニ至ラン又若シ天
下兵革ヲ用エルアラハ軍糧ヲ購入スルカ為ノ非常ノ騰
貴ヲ来シ立トコロニ巨額ノ金貨ヲ費ヤシ之ニ加フルニ
諸民ノ困難勝テ言フヘカラサラン彼ヲ思ヒ此ヲ計ルニ
現今國家ノ疲弊ヲ救セ傍ラ不虞ニ備フルハ田畑ノ税額
中姑ラク其幾分ヲ旧慣ニ復スルニ在ル而已



大
藏
書